

OLC オアシスライフ・ケア

私たちは、2011年3月11日の東日本大震災を期に

オアシスチャペル利府キリスト教会によって設立された非営利のボランティアグループです。

※法人設立準備中

目次

挨拶

オアシスライフ・ケアの松田牧人代表(オアシスチャペル利府キリスト教会・牧師)からの挨拶です。

ページ 1

活動報告

私たちがこれまでにやってきた様々な活動を紹介いたします。

ページ 2-5



会計報告

2011年3月11日から2012年月日までの会計報告です。

ページ 6



挨拶

光を信じて

今年に入ってから何度か、関東方面で行われた震災シンポジウム、セミナー等でお話しさせていただいています。みなさん、声を揃えて「生の声を聞くことができ良かった」「震災は過去のことではないと改めて

思った」などの反応をくださいます。ある方は、このように感想を述べられました。「自分は大病をして以来、今なお不自由さが続いている。だから、『病み上がり』と言われると『いや、病み上がりではなく、病み最中だ!』と言いたくなる。それと同じように、東北の人々に『あれは大変な震災“でした”ね』と過去形で語ってはならないと思わされた。」

確かに震災は未だに続いています。私の自宅からほど近い駅(仙石線高城駅)の向こう側では、まだ電車が不通のままです。行き場の見つからな



光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。

ヨハネの福音書 1章5節

い瓦礫の山が方々にあり、まだまだ「復旧」さえままらない地域もあります。12万人とも言われる震災関連失業者の問題、高台への集団移転の問題、仮設住宅におけるメンタルケアの問題、阪神淡路大震災と比較するとボランティアが1/3程度であるという問題、リーダーシップの問題、そして、福島では放射

能の問題…。問題を挙げればきりがありませんが、これら一つ一つと向き合っていく必要があります。「復興」「絆」という言葉で簡単に誤摩化すことのできない深い「闇」がそこにはありません。しかし、私たちは、誤摩化しや気休めではない本当の「光」があることを信じています。闇は決してこの光に打ち勝つことができません。何があってもあきらめず、この光の種を蒔き続けていきたいと思えます。引き続き、お祈りとご協力をお願いいたします。

オアシスライフ・ケア代表 松田牧人



活動報告

2011.10.25-2012.2.15

養殖復興支援のPR活動！



私たちは、復興支援団体の海友支援隊さん、そして石巻の漁師さんたちと一緒に東京に赴き、養殖復興のための支援を呼びかけてきました。会場となった聖書キリスト教会では、教会員や被災地支援に関心のある学生たちに向けて、漁師さんたちが今の心境やご自分の被災体験を話してくださいました。津波にのまれかけて電柱によじのぼって逃げたことや、何日も飲まず食わずだったこと、諦めていた家族との再開、そして何ヶ月経っても癒えない心の傷について、涙とともに正直に分ち合ってください、会場全体も涙に包まれました…。普段は明るく気丈に振る舞っておられる漁師さんたちの心の奥底にある思いを知る機会となりました。漁師の方々が願う養殖事業の復興は、多くの支援と長い年月を要する、自力では到底達成できない目標です。今後とも、祈りに覚えていただければ幸いです。



あったかプロジェクト 第2弾



私たちが関わっている宮城県石巻市・寄磯浜の方々に「あったかいプレゼント」をお届けしました。これまで、ファンヒーターや灯油と灯油用のポリタンクなどをお届けしてきましたが、今回はあったかい「ダウンコート」と灯油（支援金）です。

仮設住宅で物資をお渡しした後、すぐ側にある寄磯漁港にも赴き、地元の漁師さんたちのお話を伺いました。何度もお会いするうちに、お互いに冗談が飛び交ったり、逆に真剣な話ができるようになったり、関係の深まりを感じています。漁師さんたちは、実際に自分たちが津波に遭った場所を歩きながら「あの日」のことを語ってください、私の目には思わず涙が溢れて来ました。そして「彼らの声をより多くの人たちに伝えたい。被災地が忘れられてはならない」と思われました。今後も被災地の「今の声」をWEBサイト等で発信していきます。



教会のない地区でクリスマス会



2011年のクリスマスを間近に控えたある日、私たちは宮城県南三陸町・志津川でクリスマス会を開きました。志津川・沼田ふれあいセンターに集まり、楽しく語り合いながら食事をしたり、スタッフのKEN MATSUDAが歌うゴスペルを聞いたり、クリスマスの讃美歌を歌ったりしました。

何十年来の友達のように和気あいあいと過ごし、一生忘れることのできないひと時になりました。そして会の最後には、クリスマスの本当の意味についてお話しさせていただくことができました。「イエス様は『あなたはひとりじゃない』というメッセージを届けるために生まれてくださった!」という言葉に目頭を熱くしている方々もおられました。



このクリスマスの際に、聖書に書かれている温かくて力強いメッセージを分かち合うことができたことは感謝でした。私たちはこれまで、この地区のみなさんが体験した壮絶な出来事について度々お聞きし、胸を痛め、涙を流し、そのことが頭から離れなくなることもしばしばでした。

この町には、誰にも話すことができない悩みや、他人には理解し得ない痛みを数多く抱えておられる方々がまだまだ多くおられます。「あなたはひとりじゃない」というメッセージを届ける使命を改めて強く感じました。

チャリティーコンサート!

TVや舞台等で活躍しておられるオペラ歌手の中島啓江（下写真）さんが、17年前の阪神淡路大震災をきっかけに始められた追悼チャリティーコンサートが今年も行われました。会場の聖書キリスト教会東京教会を大勢の方々が埋め尽くし、中島さんを始めとするアーティストの方々の歌声に心癒されました。このコンサートを通して集められた募金は、中島さんが団長を務めておられるNPO法人スマイル合唱団を通じてオアシスライフ・ケアにお送りいただきました。心から感謝を申し上げます。



また、宮城県・利府町の住民グループ「利府町被災地支援の会」がオアシスチャペルを会場にチャリティーコンサートを開催して、こちらも収益金の大部分をオアシスライフ・ケアにお送りくださいました。会場には100名近くの人々が集まり、宗久真紀さん（宮城県・気仙沼市出身の歌手）の歌う素晴らしいシャンソン、カンツォーネに耳を傾けました。会場には、遠く南三陸町・志津川から駆けつけてくださった皆さんの姿も見えました。

このように、私たちは国内外の多くの方々からのサポートを受けてこれまでの活動を継続して行うことができました。本当にありがとうございます!



ゴスペル・ワークショップの開催！



希望の歌「ゴスペル」の無料ワークショップを開催しました。ゲストにはゴスペル・キーボーディストの第一人者Kaz Katoさんをお迎えし、オアシスライフ・ケアのKEN MATSUDAが講師を務めました。



利府町と仙台市の2カ所の会場に、仮設住宅からの参加も含めて合計60名以上の参加者が集まりました。2日間の日程のうち、初日は練習、

2日目は教会の礼拝においてライブ発表を行い、音楽の楽しさとゴスペルの歌詞に込められた深い希望のメッセージを十分に体験していただくことができました。

私たちはこのワークショップの開催を通して、ゴスペルの与える希望がこの地に本当に必要とされていると思わされました。ゴスペルの歌詞に込められたメッセージと今自分たちが置かれている状況を重ね合わせ、目に涙を浮かべる方々もおられました。今後も、一人でも多くの方々にゴスペルを通して希望を届けていきます！



SHIZU革 イスラエル軍医療隊への贈呈

震災直後の3月末、イスラエル国防軍・医療隊の約60名が南三陸町で医療支援を行いました。団長は帰国する前、町民に「私は今度にはもっと嬉しい出来事だけで出会えることを望んでいます」と挨拶をしました。そのような「嬉しい再会」を願いつつ、私たちも南三陸町での支援活動を続けてきました。



ある日、私たちのもとに一本の電話が入り、日本からイスラエルを訪問する使節団が「SHIZU革」（次ページ紹介の内職製品）を医療隊の方々に届けてくださるとのお話でした。南三陸町の皆さんの感謝を、海を越えて「SHIZU革」が運んでくれるのです。



1月22日、私たちの協力団体であるB.F.P.Japanを通じて、医療チームのコーヘン大佐に日本の”ふるしき”に包んだ「SHIZU革」製品が届けられました。大佐は、驚きと共に大変喜んでくれました。製品のひとつひとつが「あの時は本当にありがとう！」「私たちは今も悲しみや苦しみと戦っているけど、心には希望があります！」と語りかけているようでした。B.F.P.Japanさん、ありがとうございました。

SHIZU草



オアシスライフ・ケアが被災地のお母さんたちと進める内職支援プロジェクト。
南三陸町・志津川のお母さんたちと共に革細工ブランド「SHIZU草」を立ち上げ、
共に製品を産み出し、共に復興への道を歩んでいきます。

南三陸町・志津川において、オアシスライフ・ケアのボランティアと現地のご婦人たちが革細工ブランド「SHIZU草」（商標登録出願中）を立ち上げ、手作りの製品を生み出しています。

材料・運営コストを除いた収益は、製作している被災者お一人お一人の現金収入となり、大変喜ばれています。

私たちはこの働きを通して、

- ① 「現金収入」
- ② 「生きがいを感じられる日々の務め」
- ③ 「心をつかち合って話し合える場」

...という3つを被災地にお届けしています。
応援よろしく願いいたします！

「SHIZU草」製品委託販売のご協力、ご検討をいただけます方は、ぜひご連絡ください！

*連絡先 (E-mail) : info@oasislifecare.org



会計報告とご協力のお願い

オアシスライフ・ケアの働きは、多くの方々のご支援、ご協力によって成り立っています。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。今後も長く、効果的に働きを続けていくために、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

2011年3月11日～2012年2月15日までの収支報告

	合計金額	科目
収入	¥15,994,822	献金、支援金
支出	¥13,172,984	被災地に届ける物資、機材・備品、ガソリン代、スタッフ人件費 他
残高	¥2,821,838	今後の働きのために繰り越し

上記の通り報告いたします。

2012年2月15日

支援金窓口

【三菱東京UFJ銀行】

支店名：仙台支店 口座番号：普通0242364

口座名：オアシスライフ・ケア 代表 松田牧人

【ゆうちょ銀行】

・他金融機関より

店名：八一八（読みハチイチハチ）

口座番号：普通 4130375

口座名：オアシスライフ・ケア

・ゆうちょ銀行より

記号：18110 番号：41303751

*定期的に発行しているニュースレターをご希望の方は、お手数ですが当方までご連絡ください。

関連情報

スタッフ

代表：松田牧人（オアシスチャペル利府キリスト教会・牧師）

スタッフ：菊地祥彦

スタッフ：國分圭介

スタッフ：松田 献

スタッフ：三浦良太

会 計：郡山英明

連絡先

事務所：〒981-0104 宮城県宮城郡利府町中央2-5-1
(利府キリスト教会内)

TEL&FAX：022-356-2494（利府キリスト教会）

E-mail：info@oasislifecare.org

Webサイト

Webページ：<http://oasislifecare.org>

Facebookページ：<http://www.facebook.com/>

OasisLifeCARE

Twitter：<http://twitter.com/#!/OasisLifeCARE>

賛同者

尾山清仁・キャシー（聖書キリスト教会東京教会・牧師）

加賀洋子（ASKアカデミー・ジャパン株式会社 CEO）

葛西浩二（有限会社テレビジョンワークス・代表取締役）

Kaz Kato（ミュージシャン）

郡山榮次郎（心療内科医）

後藤献児朗（有限会社サーブ介護センター 代表取締役）

篠田真宏（ゴールデンルールリミテッド・代表）

ジェイソン・エワート（作家・Australian of the Year nominee 2007）

中村佐知（翻訳者／心理学者〈Ph.D.〉／JCFN理事）

日野 哲（東北学院大学・総務部長）

広崎仁一（ヒューサーブ代表）

藤掛 明（聖学院大学総合研究所・准教授／臨床心理士）

藤原淳賀（聖学院大学総合研究所・教授／恵約宣教教会・牧師）

松田和憲（関東学院大学工学部・教授／関東学院教会・牧師）

渡邊忠雄（元 東北大学大学院工学研究科・教授／

中国<瀋陽> 東北大学・客員教授）

協力団体

一般社団法人 海友支援隊 <http://www.kinka-hoya.com>

一般社団法人 CRASH Japan <http://www.crashjapan.com>

NPO法人 スマイル合唱団 <http://smile-chorus-npo.org>

宗教法人 日本バプテスト同盟 <http://www.jbu.or.jp>

聖書キリスト教会東京教会 <http://seishokirisuto.com>

Bridges For Peace JAPAN <http://www.bfpj.org>

※50音順／敬称略／2012年2月15日現在